

1、教育委員会の活動

評価項目	具体項目	点検・評価内容	実施状況	H24年度評価				
				教育委員会評価	A	B	C	D
(1) 教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会会議の開催回数	・定例会開催回数 ・臨時会開催回数	・定例会を毎月開催した。(1 2回) ・臨時会を1回開催した。	B		1		
	②教育委員会会議の運営上の工夫	・移動教育委員会回数 ・休日開催回数	・移動教育委員会開催は0回。 ・休日開催は0回。					
(2) 教育委員会の会議の公開や市民への情報発信	①教育委員会会議の傍聴者の状況	・傍聴人の数	・傍聴人の合計=0人	A	1			
	②議事録の公開、広報活動	・HPの掲載状況 ・議事録の公開請求回数	・毎月、定例会の開催を掲載 ・議事録をHPに毎回掲載					
(3) 教育委員会と事務局との連携	①教育委員会議題の事務局による事前の周知状況	・議題の事前学習会開催回数 ・次回の日程の協議 ・議題の事前提供の状況	・毎月の定例会前に事務局で事前学習会を開催 ・定例会前に、議題について毎回事前周知	A	1			
(4) 教育委員会と市長との連携	①教育委員会と市長との意見交換会の実施	・市長との協議回数と内容	○学校の新設工事や耐震化工事について、工事の進捗状況や工事内容について、その都度協議 ○西井川小学校建設に関する協議 ○学校情報基盤整備計画に関する協議 ○三好市奨学金償還に関する免除制度について	A	1			
(5) 教育委員会の研修	①研修会等の開催や取り組み状況	・研修会への参加回数	○三好市教育委員会コンプライアンス研修 ○箸蔵寺における文化財群現地視察研修 ○文科省市町村教育委員会研究協議会 ○徳島県市町村教育委員等研修会	A	1			
(6) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備	①学校訪問の状況	・学校訪問	○各旧町村別に集合し、6地区で全学校を対象に学校訪問を実施(5月開催)	A	1			
	②所管施設等への訪問状況	・施設への訪問実績	○馬路小学校耐震化保護者説明会 ○学校情報基盤整備計画策定 ○西井川小学校建設に関する地区説明会					
総合評価				A	5	1	0	0
					83.3%	16.7%	0.0%	0.0%

評価A 達成度・90～100%
 評価B 達成度・70～ 80%
 評価C 達成度・50～ 60%
 評価D 達成度・50%以下

総合評価基準（全体に占めるA評価の割合） 75%以上=A
 50%以上=B
 25%以上=C
 25%未満=D

2、教育委員会が管理執行する事務

評価項目	具体項目	点検・評価内容	実施状況	H24年度評価				
				教育委員会評価	A	B	C	D
(1)教育行政に関する方針等を定めること	○教育委員会重点目標の決定及び実施	三好市教育振興計画に基づき、教育行政を進めてきたか。	○重点目標を決定し、各課において平成24年度における取り組みについて、自己評価を実施	A	1			
(2)学校、公民館等の設置及び廃止に関すること	○休校、休園、廃校等の承認	三好市教育振興計画に基づき、学校規模の適正化を推進したか。	○西岡小学校、幼稚園の廃止 ○西祖谷中学校移転による三好市学校設置条例の一部改正 ○大野小学校の休校について承認 ○東谷、太刀野山、漆川、馬場、西山、出合、野呂内、河内、西宇、平野、善徳、有瀬の各小学校の廃校について承認及び廃校手続きの完了。 ○太刀野山、馬場、西山、出合、野呂内、河内、西宇、善徳、有瀬の各幼稚園の廃園について承認及び廃園手続きの完了。	A	1			
(3)教育委員会事務局及び教育機関の職員等の任免、その他人事に関すること	○発令した辞令の内容と規模		○人事異動については市長部局へ内申の実施 ○幼稚園助教諭(11名)、特別支援教育支援員(13名)、学校給食調理員補助員(2名)、臨時作業員(3名)の採用	A	1			
(4)褒章及び懲戒を行うこと	○三好市教育委員会が発した内容	三好市教育委員会が褒章、懲戒を発した内容は適切か。	○細田雄一選手ロンドンオリンピック出場に対し、市長部局と合同で表彰。	A	1			
(5)県費負担教職員の任免及び人事の内申に関すること	○任免、内申の規模と内容	内申した内容と規模は適切か。	○教職員管理職登用受審者を決定(校長任用9名、教頭任用12名) ○県教委に対し人事異動の内申を実施。その結果、意向がほぼ人事異動に反映された。	A	1			

2、教育委員会が管理執行する事務

評価項目	具体項目	点検・評価内容	実施状況	H24年度評価				
				教育委員会評価	A	B	C	D
(6)教育委員会規則及び規程の制定または改廃すること	○制定された規則の項目と内容	教育振興計画を実現するためになされた規則等の制定、改廃はどういった項目であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ○三好市遠距離児童生徒通学費補助等に関する要綱の制定 ○幼稚園の評価についての規則、要綱の改正 ○学校管理規則(学校事務グループ化)の一部改正 ○学校事務グループ実施要綱の制定 ○三好市へき地学校給食支援事業実施要綱の制定 ○三好市適用指導教室の設置及び運営に関する要綱の一部改正 ○三好市招致外国青年任用規則の一部改正 ○三好市スポーツ施設整備基本構想策定委員会設置要綱の制定 ○三好市社会体育施設条例施行規則の一部改正 ○三好市奨学金、三好市幼稚園保育料の滞納整理事務取扱要綱の制定 ○三好市スポーツ少年団全国大会派遣補助金交付要綱の制定 ○教職員の私有車の公務使用に関する要綱の制定 ○廃校に伴う指定校の規則改正 	A	1			
(7)教育予算その他議会の議決を経るべき議案に関する事	○議会提出議案の内容	議事に提出された議案の内容はどういった項目であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ○定例補正予算案4回、平成24年度当初予算案の決定 ○西祖谷中学校移転による三好市学校設置条例の一部改正 ○三好市立学校設置条例及び幼稚園設置条例の一部改正 ○三好市歴史的風致維持向上計画協議会設置条例の制定 ○三好市伝統的建造物群保存地区防災計画策定委員会設置条例の制定 ○三好市社会体育施設条例の一部改正 	A	1			

2、教育委員会が管理執行する事務

評価項目	具体項目	点検・評価内容	実施状況	H24年度評価				
				教育委員会評価	A	B	C	D
(8)教育委員会所管の各種委員会等の委員の任命及び委嘱に関する事		任命、委嘱した各種委員の内容と規模	○平成24年度使用中学校教科用図書採択協議会委員の選任(4名) ○就学指導委員会委員の委嘱(19名) ○特別支援連携協議会委員の委嘱(18名) ○文化財保護審議会委員の委嘱(19名) ○社会教育委員の委嘱(15名) ○三好市青少年育成センター運営委員の委嘱(10名)	A	1			
(9)文化財を指定し、又は変更すること	○指定した文化財の内容	指定や変更のあった文化財と指定内容	○有形民俗文化財「徳善からくり襖絵」を三好市文化財に指定 ○「高ノ瀬オオヤマレンゲ群落」を三好市天然記念物に指定	A	1			
(10)通学区域を設定し、又は変更すること	○変更を決定した通学区域の内容	校区の指定変更は適切に処理されたか。	○閉校に伴い三好市立小学校及び中学校への就学予定者の学校指定に関する規則の改正	A	1			
(11)教育事務の管理、執行状況の点検及び評価に関する事	○点検、評価の内容とその方法	平成24年度に実施した重点目標に対する取り組みについて、各課で点検、評価を行い、検証したか。	○教育事務の管理、執行状況について、各担当課において点検評価を実施し、エドバイザーの意見を聞き、教育委員に最終評価を受けた。	A	1			
(12)その他			○就学援助費交付対象者の認定(44人) ○申請のあった奨学生の受理決定数(15名) ○体罰に関する実態調査	A	1			
総合評価				A	12	0	0	0
					100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

評価A 達成度・90～100%
 評価B 達成度・70～80%
 評価C 達成度・50～60%
 評価D 達成度・50%以下

総合評価基準（全体に占めるA評価の割合）
 75%以上=A
 50%以上=B
 25%以上=C
 25%未満=D

3 教育委員会が教育長に管理・執行を委任する事務

平成24年度：三好市教育委員会

評価 A(達成度・90～100%) B(達成度・70～80%) C(達成度・50～60%) D(達成度・50%以下)

基本方針		重点施策	具体的実践施策	担当課	平成24年度における取組の計画と実施内容	H24年度		教育委員会評価			
						教育委員会評価	A	B	C	D	
1・楽しく、生きがいあふれる生涯学習の推進	(1) 共に生きる社会づくりと人権文化の創造	(1)「学び」の支援と生涯学習環境の整備・充実	①生涯学習講座において、人材の活用を図り、多様な学習機会の提供を図る。	生涯学習	市民大学6回開催(672人)、社会教育講座3回開催(125人)、健康講座5回開催(88人)、パソコン講座5か所開催(46人)、学術文化学会講座5回開催(220人)、公民館講座75回開催(延べ30796人)	A	1				
			②図書館(室)の利用促進を図り、市民の「学び」を支援する。	生涯学習	図書館講座を12回開催(大人=延べ149人、子供=延べ203人)。年間図書館利用者数=60,899人。年間の図書館利用人数=26,033人	A	1				
			③生涯学習施設の整備・充実にを図る。	生涯学習	①中央公民館の屋根修繕(6,363千円) ②影野分館屋根修繕(3,654千円) ③東祖谷郷土文化保存伝習施設天井耐震化整備(4,148千円)	A	1				
		(2)人権文化の創造とノーマライゼーション社会の実現	①「ひと」にやさしい人権のまちづくりを推進する。	生涯学習	①人権教育推進講演会の開催(4回、1200人参加) ②公民館人権講演会 3回開催(118人) ③市報、チラシ等による啓発(6回)	A	1				
			②生涯学習の視点に立った人権教育を推進し、人権教育における学校・家庭・社会教育の一体化をめざす。	生涯学習	人権教育推進講演会を主体に、市内各小中学校に人権教育を推進する事業を実施。(=12校)	B		1			
			③三好市特別支援連携協議会や支援員制度の充実を図り、適切な特別支援教育を推進する。	学校教育	三好市特別支援連携協議会を通じて関係機関の連携を図り、市全体の特別支援教育の底上げを図った。(総会1回・各地域会6回・研修会1回)今年度は特に文科省の研究指定を受け相談支援ファイルを整備した。支援員の配置については要望のあった学校を訪問し対象児童生徒の把握及び適正配置について協議を行った。支援員への研修は春と夏に2回。活動報告の提出を毎学期末に義務付けている。	A		1			
		(3)人権問題解決への実践化	①教職員の人権意識の高揚を図り、学校教育における人権教育を充実する。	学校教育	小中学校に人権教育主事等を設置し、各学校で人権教育年間計画書の提出を義務付けている。教育の成果は教職員の意識が左右するため、職員の研修を深めながら意識を高めている。	A		1			
			②三好市人権教育講師団の組織及び研修活動を充実し、社会教育における人権教育を充実する。	生涯学習	○人権講師団の研修の開催(1回) ○講師団講師の各種研修会への派遣(8回)	B		1			

3 教育委員会が教育長に管理・執行を委任する事務

平成24年度：三好市教育委員会

評価 A(達成度・90～100%) B(達成度・70～80%) C(達成度・50～60%) D(達成度・50%以下)

基本方針		重点施策	具体的実践施策	担当課	平成24年度における取組の計画と実施内容	H24年度	教育委員会評価			
						教育委員会評価	A	B	C	D
			③「あわ人権学習ハンドブック」を活用し、人権教育の具体的実践を図る。	生涯学習	人権室と共同で人権問題、人権学習の取り組み方などの研修した。	B		1		
	(2) 地域文化の振興・継承と文化財の保護・活用	(1) 地域文化の振興と継承	①文化財の基礎調査を実施し、現状把握や発掘に努めるとともに、未指定も含めた文化財の保護・保存と活用を推進する。	文化財課	○辻地区町並み調査事業・・・第2次調査を実施(建造物詳細調査、なでしこ祭りにおいてパネル展示) ○調査した文化財の内容 【天然記念物】①大歩危峡天然記念物区域設定調査測量の実施 【有形文化財(建造物)】 ①徳善家住宅(未指定)、西岡家住宅(西祖谷山村) ○指定した文化財の内容 (市指定)【天然記念物】①高ノ瀬オオヤマレンゲ群落(東祖谷山菅生) ②徳善からくり襷絵(西祖谷山村) ○池田町たばこ資料館の史料整理、阿波葉刻みたばこ実演実施 ○近代和風建築総合調査の実施(補足調査)	A	1			
			②無形文化財の映像化による記録・保存に努め、その活用を図る。	文化財課	○文化財の映像記録の作成 ・阿佐家住宅保存修理事業の映像記録	A	1			
			③児童生徒による郷土の伝統的芸能等、地域文化の継承を推進・奨励する。	文化財課	○文化伝承保存活動事業の実施(18団体) ○かずら橋資材確保実行委員会との連携活動の実施 シラクチカズラの苗木作り(西祖谷中学)	B		1		
		(2) 文化財の保護と活用	①有形文化財の基礎的な調査及び修復、案内板の整備等、文化財保護事業の推進を図る。	文化財課	○実施した文化財の保存・復元事業 【歴まち事業】 ・阿佐家住宅保存修理事業実施計画書を作成 ・旧真鍋家住宅保存修理事業(屋根改修工事) 【落合重伝建地区】 ・屋根の塗り替え=12件21棟 ・建造物修理=2棟 【財団助成による修復事業】 ・中村家墓所修復整備事業 【重文箸蔵寺護摩殿保存修理変状調査】 ・外陣(向拝部分)、内陣、奥殿の変状調査の実施 ○設置した文化財の説明板(3か所) ・高ノ瀬オオヤマレンゲ群落 ・徳善からくり襷絵 ・新山古墳	A	1			

3 教育委員会が教育長に管理・執行を委任する事務

平成24年度：三好市教育委員会

評価 A(達成度・90～100%) B(達成度・70～80%) C(達成度・50～60%) D(達成度・50%以下)

基本方針	重点施策	具体的実践施策	担当課	平成24年度における取組の計画と実施内容	H24年度	教育委員会評価			
					教育委員会評価	A	B	C	D
	(2)「総合型地域スポーツクラブ」の推進	①池田地区の総合型地域スポーツクラブの充実を図るとともに、他地域への波及や設立に向けた指導を実施する。	スポーツ健康課	池田総合型地域スポーツクラブの充実については、体育館メインアリーナ舞台装置による事故を受けて、緊急点検及び修繕を行った。また、会議室床の修繕、バスケットボールのコートラインを新ルール用に変更した。他の地域については、総合型地域スポーツクラブの設立ができていない。	B		1		
		②学校と社会体育・スポーツの連携を図り、児童生徒の生涯にわたるスポーツライフの基盤づくりを推進する。	スポーツ健康課	スポーツ少年団の活動に補助を支出した。学校対抗の駅伝大会を開催。スポーツ少年団が全国大会等に出場する場合の補助金交付要綱を制定した。	A	1			
		③各地区のスポーツクラブや団体等の活性化を図り、ジュニア養成や青少年の健全育成に努める。	スポーツ健康課	少子化が進む中、集団スポーツを体験をするため、高校生の運営ボランティアによるスポーツマーケットを開催。	B		1		
	(3)スポーツ施設の有効活用と設備充実	①スポーツ施設の耐震化、修繕、改築等の全体計画を検討し、年次的、計画的な整備充実を図る。	スポーツ健康課	池田総合体育館、三野総合体育館については、耐震化ができています。また、他の学校施設の体育館についても耐震化計画の中で順次、耐震化に取り組んでいる。しかし、休校となっている学校の体育館において、耐震化ができていない。	B		1		
		②身近なスポーツ施設を利用してスポーツに親しむことができる多様なスポーツ環境を提供し、市民の健康づくり、生きがいづくりを推進する。	スポーツ健康課	池田スポーツクラブや公民館活動において、市民誰でもがスポーツに親しむことができるよう、様々な講座を開講し、スポーツに親しむ環境を提供した。池田スポーツクラブ定期講座は16講座、会員登録者数295人。また、三好市社会体育施設協議会を立ち上げ、三好市社会体育施設使用料金の改定を行った。西祖谷中学の移転により、体育館及びグラウンドを西祖谷一宇運動公園として社会体育施設として利用することに決定した。	B		1		
		③三野町堤外地の運動公園の計画化や学校体育施設の整備充実を図り、施設開放による有効活用を積極的に推進する。	スポーツ健康課	平成24年度三好市スポーツ施設整備基本構想対策委員会を立ち上げ、体育施設の現状と課題を協議し、施設整備の基本方針及び今後の推進についてまとめた。	B		1		

3 教育委員会が教育長に管理・執行を委任する事務

平成24年度：三好市教育委員会

評価 A(達成度・90～100%) B(達成度・70～80%) C(達成度・50～60%) D(達成度・50%以下)

基本方針	重点施策	具体的実践施策	担当課	平成24年度における取組の計画と実施内容	H24年度 教育委員会評価					
					教育委員会評価	A	B	C	D	
2・たくましく、 未来にはばたく 子どもの育成	(1)地域の特性を生かした特色ある学校づくり	①各学校における長期的目標の明確化を図り、特色ある学校づくりを推進する。	学校教育	年度当初に各学校より長期的目標に立ち計画表の提出を義務づけ、ヒアリング時に、オンラインからナンバーワンの学校としての特色ある学校づくりの推進を促した。	A	1				
		②特色ある学校づくりの取り組みを公表し、保護者、地域住民の理解、協力によるナンバーワン・スクールの実現を目指した学校運営を推進する。	学校教育	各学校で計画表に基づき、教員と保護者会で話し合い、理解を頂き、保護者や地域住民の協力を得て学校運営に取り組んだ。	A	1				
		③オンラインワンスクールの実現については、学校評価を適切に行い、年次的、計画的、継続的に実践する。	学校教育	学校訪問において、オンラインワンスクールの取り組みについて、ヒアリングを実施し継続的に実践するよう指導し、年度末に報告書の提出を義務付けた。	A	1				
		(2)ステップアップスクールの推進	①各学校における短期的目標の明確化を図り、特色ある学校づくりを推進する。	学校教育	年度当初に各学校で短期目標の計画表の提出を義務づけ、計画が実現できるようにヒアリングを実施し、推進を促した。	A	1			
			②ステップアップスクールの実現を図るための行政的支援を積極的に行い、学校の活性化を図る。	学校教育	ICT支援員の派遣、学校におけるICT環境整備に対する基本計画の策定、また図書備品等の支援を行った。	A	1			
			③ステップアップスクールの推進については、学校評価を適正に行い、到達目標の達成を図る。	学校教育	学校訪問において、取り組みについてのヒアリングを実施し、推進するよう指導した。年度末に報告書の提出を義務付けた。	A	1			
		(3)学校支援ボランティア体制の確立	①各学校における学校評議員制度を充実し、開かれた学校づくりを推進する。	学校教育	市内全ての幼・小・中学校において学校評議員を置くことが出来た。学校運営に関して、学校と地域の連携をはかることが出来た。	A	1			
			②学校支援のネットワーク化を図るための人材バンクを設立し、人材の活用を図る。	生涯学習課	山城地区を除く、5地区の中学校区で学校支援ボランティアを活用し、学校支援活動を実施した。	B		1		
			③学校支援地域本部(学校支援ボランティア)の拡大を図り、各地域の学校支援体制を確立する。	学校教育	5地区の地域本部で活動の中心になるコーディネーター研修を実施するなど支援体制を整備した。	B		1		
	(2)「生きる力」を育む学校教育の充実	(1)「確かな学力」を確立する学習指導の推進	①「読み、書き、計算、外遊び」運動の個別的指導を重視し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。	学校教育	○平成23年度教科書改訂に伴い、教師用指導書の整備(指導書・教材・DVD)をし、教師の指導力の向上に努めた。 ○県の「子ども体力向上アクションプラン」に基づき、各校の実態に応じた取組を実施した。各校は体力向上計画策定し、早寝・早起き・朝ごはん等基本的生活習慣の確立や運動機会の確保等に努めた。	A	1			
			②児童生徒が主体的に学ぶ授業改革をめざし、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	学校教育	全国学力学習状況調査や県ステップアップテストの結果等を基に各校の実態に基づいた「学力・学習状況改善プラン」を策定し、指導方法の工夫・改善を図り、学力の定着・読書習慣・家庭学習習慣の確立等に努めた。	A	1			

3 教育委員会が教育長に管理・執行を委任する事務

平成24年度：三好市教育委員会

基本方針	重点施策	具体的実践施策	担当課	平成24年度における取組の計画と実施内容	H24年度 教育委員会評価				
					教育委員会評価	A	B	C	D
		③エドバイザー制度の活用により、校内研修の活性化を図り、教職員の指導力の向上を図る。	学校教育	市内小中学校に学期毎に1回学校訪問し、研究授業に参加し、教諭の指導及び学校経営等の指導・助言を貰い教職員の指導力向上に努めた。	A	1			
	(2)豊かな心を育成する道徳教育の充実	①体験的学習を充実し、児童生徒一人ひとりに豊かな人間性を育成する。	学校教育	〇「総合的な学習の時間」に対して三好市独自で補助金を出し、体験型学習をサポートした。	A	1			
		②学校における道徳教育を充実し、基本的な生活習慣の確立を図る。	学校教育	市内小中学校において年度初めに道徳教育の指導計画を作成し、それに基づき計画的に指導した。	A	1			
		③早期発見、早期対応に努め、「いじめ・不登校・非行の3ゼロ」運動を展開し、「心の居場所」となる魅力ある学校づくりを推進する。	学校教育	県のスクールカウンセラー事業の活用や、市独自の臨床心理士による児童相談業務(年間156時間)を実施し、不登校や学校不適応を起こしている児童生徒や保護者の支援を行った。いじめ等の早期発見のためのアンケートを毎学期実施し、予防啓発に努めた。不登校児童生徒には、適応指導教室(そよかぜ学級)を開設し、学校復帰に向けた支援を行った。	A	1			
		①教育活動全体を通して体力の向上に努め、運動好きの子供を育成する。	学校教育	〇平成24年度「徳島県子どもの体力向上重点校支援事業」や「小学校体育授業はつらつサポート」の活用により子どもの体力向上事業のサポートを行った。 〇子どもが運動好きになるために教材(DVD)を学校教育課で購入し、各学校に貸出することにより研修を行う環境を作った。	B		1		
	(3)たくましい体と健康づくりの推進	②飲酒、喫煙、薬物乱用防止教育を充実し、児童生徒の健康で安全な日常生活を保持、推進する。	学校教育	飲酒、喫煙、薬物乱用防止のリーフレットやポスターを学校に配布し、啓発を図った。	B		1		
		③食育の推進を図り、児童生徒の食生活の改善により健康の保持増進を推進する。	学校教育	各校で「体力向上計画」を策定し、早寝・早起き・朝ごはん等基本的な生活習慣の確立等に努めている。全国学校給食週間(1/24~1/30)では、各校において県の特産物や郷土料理の紹介、食事のマナー指導や給食の歴史紹介等を通じて食に対する意識の高揚を図った。	A		1		
(3)開かれた学校教育を支える支援体制の強化	(1)地域の教育力を活用した体験学習の推進	①地域の人的・物的資源を最大限に活用して、豊かな体験学習を推進する。	学校教育	〇「総合的な学習の時間」補助事業(ソフト)において各小・中学校が体験型授業の講師や環境として地域の人的・物的資源を活用した。	A	1			
		②「教育の日」や「教育週間」等の各種行事を通して、学校に対する地域の理解を深め、学校支援体制の強化を図る。	学校教育	学校や地域の実態を反映した実施計画をもとに、地域住民や保護者が参加した授業の実施や学習の成果を発表するなど、家庭や地域との連携を深める開かれた学校づくりを促進した。	A	1			
		③児童生徒に正しい勤労観、職業観を身につけさせるため、地域と連携してキャリア教育を推進する。	学校教育	〇「総合的な学習の時間」補助事業(ソフト)を活用し、各小・中学校が福祉体験学習・農林業学習・職場体験学習を展開し、正しい勤労観、職業観が身につくよう地域との連携に取り組んだ。	A	1			

評価 A(達成度・90~100%) B(達成度・70~80%) C(達成度・50~60%) D(達成度・50%以下)

3 教育委員会が教育長に管理・執行を委任する事務

平成24年度：三好市教育委員会

評価 A(達成度・90～100%) B(達成度・70～80%) C(達成度・50～60%) D(達成度・50%以下)

H24年度 教育委員会評価

基本方針		重点施策	具体的実践施策	担当課	平成24年度における取組の計画と実施内容	H24年度 教育委員会評価				
						教育委員会評価	A	B	C	D
3・豊かな「学び」を支援する教育環境の整備・充実	(2) 学校評価システムの確立と推進		①学校評議員における学校評価システムを確立し、信頼される学校づくりを推進する。	学校教育	学校関係者評価委員会の設置に向けたガイドラインを作成し、その中に学校評議員を積極的に活用するなどの地域と連携した学校評価システムの確立に取り組んだ。	A	1			
			②学校評価を広くHP等で公表するなど、地域ぐるみで学校改善をめざす学校運営を推進する。	学校教育	全小・中学校HPにおいて学校評価を公表した。	A	1			
			③将来の学校運営協議会の設置を見据えた条件整備を推進するとともに、学校支援地域本部(学校支援ボランティア)の充実や拡大を図る。	学校教育	学校支援地域本部事業に対する理解を深め、学校と家庭・地域社会が協力して児童生徒の教育に取り組むうえで、地域のニーズを大切にしたい教育活動の推進に努めた。	B		1		
		(3) 家庭の教育力向上の推進	①「早寝・早起き・朝ご飯」運動を展開し、児童生徒の生活リズムの向上を図る。	学校教育	各校で「体力向上計画」を策定し、早寝・早起き・朝ごはん等基本的な生活習慣の確立等に努めた。全国学校給食週間(1/24～1/30)では、各校において県の特産物や郷土料理の紹介、食事のマナー指導や給食の歴史紹介等を通じて食に対する意識の高揚を図った。	A	1			
			②「家庭の日」の普及啓発に努め、明るい家庭づくり運動を展開する。	生涯学習課	「家庭の日」の普及を図るため、絵画の募集を実施。市内小中学校21校より、229点の応募があった。	A	1			
			③学校と保護者の連携・協働の機運を高め、PTA活動の活性化を図る。	生涯学習課	加盟PTAのスポーツ交流大会を実施し、各PTA間の連携を図った。また、県P連や西部ブロック研修会に参加し、子どもたちの健全育成を図る活動を実施した。	A	1			
	(1) 適正規模。適正配置に向けた学校統合の推進	(1) 学校教育と適正規模・適正配置	①統合学校の施設整備及び教育内容の充実に向けた行政的支援を積極的に実施する。	学校教育	休校が決定された学校については、指定校への通学の利便性を確保するため、スクールバスの路線およびダイヤ変更、またはタクシー利用により、可能な限り支援策を講じた。	A	1			
			②東祖谷小・中学校の一貫的教育校の教育環境の整備及び教育課程の円滑な推進を支援する。	学校教育	小・中学校の体育館の建設や周辺整備工事及び備品購入費等教育環境の整備に取り組み、小中統合校として、ハード面の環境整備が整った。	A	1			
			③へき地指定学校の教職員定数改善を国・県へ要望し、複式学級の解消や組織の充実を推進する。	学校教育	エドバイザー制度を活用し複式授業の工夫改善に努めた。市内47%を占めるへき地指定校の教育充実を図るために、教職員定数や複式解消等に向けた教員配置を要望した。	A	1			
(2) 小学校の統合の推進		①地域の意向を踏まえながら、複式学級の解消を目指した学校統合を推進する。	学校教育	東祖谷地区の小学校の統合及び、西山小学校、上名小学校が統合されたことにより、小学校24校が平成24年度は18校に統合された。	A	1				
		②耐震化問題や将来の児童数の推移を考慮しながら、小学校の適正規模について地域や保護者の意識や関心を高める。	学校教育	耐震化の説明会と合わせた学校統合についての説明会は23年度中に終了した。	B		1			

3 教育委員会が教育長に管理・執行を委任する事務

平成24年度：三好市教育委員会

基本方針	重点施策	具体的実践施策	担当課	平成24年度における取組の計画と実施内容	H24年度 教育委員会評価				
					教育委員会評価	A	B	C	D
		③統合問題については、国や県の動向を踏まえながら、慎重かつ迅速な解決をめざす。	学校教育	国、県において、特に変わった動きは無く、三好市の実情に合わせた取り組みを実施した。	B		1		
	(3) 幼・保一体教育の推進	①幼稚園・保育所の適正規模・適正配置を推進するため、就学前教育施設の再編を検討する。	学校教育	○幼保検討部会(年間3回)において、「東祖谷認定こども園(仮称)」設立に向けての取り組みについての研修・協議を重ねた。 ○「三好市就学前教育・保育基本方針(平成22年度策定)」をもとに、「就学前教育・保育の今後の在り方」、「幼保一体化について」、また、旧町村ごとの「就学前教育推進計画(工程表)」等についても協議し、地域や子どもの実態に沿った取り組みを検討した。	B		1		
②幼稚園、保育所、小学校の連携強化を図り、充実した就学前教育を推進する。		学校教育	○幼児が、小学校教育へと円滑な接続ができるよう、子ども同士の交流や保・幼・小の職員が合同研修に参加し、互いの教育内容や子どもの実態を理解し合えるような機会を設けるなど、連携・協力体制の強化に努めた。 ○特別支援教育においては、専門機関と連携しながら研修を重ね、子ども一人一人の発達に即した支援の在り方を共通理解し、支援体制の整備・強化に取り組んだ。	B		1			
幼稚園教育の振興を図るため、地域の実態や保護者の要請に応じた「預かり保育」を実施し、拡充を図る。		学校教育	○池田町の幼稚園(4園)で午後保育を実施し、約47%の園児が利用している。他にも、急な要請にも対応できる「一時預かり」や休業中の預かり保育も実施し、地域の実態や保護者のニーズに応じた預かり保育の充実を努めた。 ○井川町・山城町の園児については、放課後児童クラブを利用しており、また、西祖谷山村の園では、他園より降園時刻を延長して対応している。	A		1			
(2) 安心で安全な施設設備の整備・充実	(1) 校舎等の耐震化の推進	①耐震化については、学校統合も見据えながら計画的に推進する。	学校教育	学校施設年度別整備計画を基に、平成26年度において学校施設耐震化率100%を目指して、計画を推進した。	A		1		
		②耐震診断・耐力度調査の結果を踏まえ、緊急度の高いものから計画的に耐震化を推進する。	学校教育	平成24年度は、辻小学校校舎と西祖谷中学校の改築工事を実施。また、井内小校舎、芝生小屋体、川崎小校舎・屋体の耐震補強工事を実施。西井川小改築工事設計業務、三縄小屋体、馬路小校舎の耐震設計業務を実施した。	A		1		
		③耐震化率の目標を、H24年度80%、H26年度100%として、早期の耐震化を図る。	学校教育	・H24年度末において、耐震化率が90.1%となる予定。100%達成はH27年3月末の予定。	A		1		
	(2) 食育と地産地消の推進	①食育推進計画、学校食育指導プランに基づき、各学校における食育を実践する。	スポーツ健康課	各小中学校において、学校食育計画を立て、食育を推進した。親子食育教室を3校で実施した。	A		1		
		②学校と家庭との連携を図り、児童生徒の望ましい生活習慣、食習慣の確立を図る。	学校教育	各校で「体力向上計画」を策定し、早寝・早起き・朝ごはん等基本的な生活習慣の確立等に努めた。また、学校給食試食会を開催し、保護者に参加いただくことで、学校給食への理解を図るとともに食育への関心を高めた。	A		1		

3 教育委員会が教育長に管理・執行を委任する事務

平成24年度：三好市教育委員会

評価 A(達成度・90～100%) B(達成度・70～80%) C(達成度・50～60%) D(達成度・50%以下)

基本方針	重点施策	具体的実践施策	担当課	平成24年度における取組の計画と実施内容	H24年度	教育委員会評価			
					教育委員会評価	A	B	C	D
(3) 情報化社会に対応した教育環境の充実	(3) 学校内外の安全と地域ボランティア活動の充実	③給食センター及び共同調理場の統合問題を検討するとともに、地場産物の活用率を高め、学校給食における地産地消を推進する。	スポーツ健康課	平成24年度三好市給食センター基本調査を実施、また、各調理場において、米や野菜など地場産品を給食に利用した。	A	1			
		①交通安全指導や防災教育など安全教育の徹底を図り、安心して安全な学校づくりを推進する。	学校教育	各校で年数回の防災訓練を実施した。教職員を対象とした「防災教育研修会」を開催した。	A	1			
		②地域や関係機関との連携を強化し、児童生徒の安全確保をめざした組織的、機動的な防犯体制の整備を図る。	学校教育	PTA、地域住民の方々の協力を得ながら、登下校時の安全をはかった。	A	1			
		③防災、防犯等の安全管理に関する設備施設の充実を図り、安全確保のための環境設備を推進する。	学校教育	各校の休日夜間警備については、小・中全校、幼稚園4園で警備会社と契約を行った。火災報知機は、小・中全校、幼稚園9園に設置済み。消火器は全小・中・園に設置済み。	B		1		
	(1) ICT教育環境の充実と活用	①各学校におけるコンピューター等の配置・更新を計画的に実施し、ICT教育環境の質の向上を図る。	学校教育	専門業者のコンサルティング受け、三好市教育推進協議会で三好市学校情報基盤整備計画を作成した。全小・中学校へのデジタル教科書の整備を検討をした。	A	1			
		②大型テレビや電子黒板等を活用した指導方法の研修を推進し、各学校において情報機器の効果的な活用による授業を推進する。	学校教育	ICT支援員による推進を行った。来年度整備計画において使いたいときにすぐ使える環境とした。全小・中学校への電子黒板の整備を検討をした。	A	1			
		③リニューアルした各学校のHPを適宜更新し、様々な学校の情報を積極的に発信することにより、より開かれた学校づくりを推進する。	学校教育	年間アクセス数 教育委員会：34035(前年度：30205) 小学校18校平均：3108(前年度：2717) 中学校6校平均：8098(前年度：7354) アクセス数は前年度より若干増加した。一部更新頻度の少ない学校があるため、積極的な情報発信を推進する必要がある。	B		1		
	(2) 教職員のICT指導力の育成及び向上	①ICT教育支援員を各学校に派遣し、すべての教職員が授業や校務でICTの活用が図れる能力や技術力を身につける。	学校教育	ICT支援員により各校で授業や校務の支援を行った。また、必要に応じて校内研修を実施した。ICT支援員派遣回数、小中学校へ月2回派遣(小規模校は1回)、絆PJ対象校へ月8回 のべ493回派遣した。中学校のICT活用指導力が伸び悩んでいるため、情報共有や効果的な支援方法を検討する必要がある。(評価内訳：小学校=A,中学校=C)	B		1		
		②様々なトラブルを未然に防止するため、情報セキュリティポリシーの普及・啓発に努める。	学校教育	情報政策課より三好市に初めて勤務する教職員を対象に4月セキュリティ研修を実施した。全教職員に対しては実施できていない。新たに三好市教育委員会セキュリティポリシーを策定した。来年度整備計画においてセキュリティ対策を向上した環境とした。	A	1			

3 教育委員会が教育長に管理・執行を委任する事務

平成24年度：三好市教育委員会

基本方針	重点施策	具体的実践施策	担当課	平成24年度における取組の計画と実施内容	H24年度 教育委員会評価				
					教育委員会評価	A	B	C	D
		③各学校で校務の情報化を積極的に推進し、事務の簡素化、効率化を図る。	学校教育	来年度の整備計画において、環境の一新を行い、事務負担が軽減するような環境を計画している。校務支援システムの整備を検討した。	B		1		
	(3) 情報モラルの教育推進と青少年の保護	①児童生徒が犯罪やトラブルに巻き込まれることを防止するため、情報モラル教育の徹底を図る。	学校教育	ICT支援員による情報モラルの授業を行った。学校の判断で行っており、徹底はできていない。	C			1	
		②個人情報などの重要な情報の紛失、漏洩を防止するとともに、様々なトラブルを防ぐための教職員の情報モラル研修を充実する。	学校教育	三好市に初めて勤務する教職員を対象に4月セキュリティ研修、管理職を対象に9月コンプライアンス研修実施した。また各学校でコンプライアンス推進責任者を置き、計画に基づき研修を実施した。	A	1			
		③学校、家庭、関係機関の連携を深め、児童生徒がICTを安全に使用するための啓発活動や体制作りを推進する。	学校教育	ICT支援員による教職員への研修の充実を図ったり、青少年育成センターとの連携するなどして児童生徒への啓発活動を計画的に推進した。	B		1		
総合評価					B	51 83.0%	29 35.8%	1 1.2%	0 0.0%

評価 A(達成度・90～100%) 総合評価基準(全体に占めるA評価の割合) 75%以上=A
 評価 B(達成度・70～80%) 50%以上=B
 評価 C(達成度・50～60%) 25%以上=C
 評価 D(達成度・50%以下) 25%以下=D